

1 札幌オリンピックミュージアムを活用した学習モデル	
荒委員	札幌オリンピックとまちの発展が密接に関係していることが分かった
荒委員	なぜ社会科の授業で取扱うことを考えているのか理解できた
秀島委員	小3を対象とするなら体験をすることが重要
秀島委員	館内の解説パネルの字が小さいことやルビが振っていないことは課題
秀島委員	レプリカでいいので、メダルに触れられたり首に掛けられるといい
秀島委員	アスリートのウェア展示に選手の顔写真があるとより良い
秀島委員	パラリンピックのコーナーを広くし、パラリンピック種目を子どもたちにわかりやすく伝えられる展示があるといい
永瀬委員	展示のボリュームが多いため、ポイントを絞って伝えるべき
山本座長	展示に補助的な写真を掲示する工夫や、事前事後の指導で焦点化を図ることが必要

2 素案の検討	
① 副教材について	
大牧委員	本物から学ぶことや体験的に学ぶことがキーワードになる
大牧委員	副教材はミュージアムに誘うきっかけになるといい
大牧委員	まちから大倉山を見るアングルの写真もあるといい
大牧委員	体育の視点を入れたら良い (ex. シッティングバレー)
大牧委員	スポーツ施設に子どもたちが行くきっかけにもしたい
永瀬委員	パラリンピックでは車いすや義足が目立つが、視覚障がいや知的障がい等他の障がいのことも伝えたい
大牧委員	オリパラそのものの知識をもっと丁寧に記載し、冒頭にもってくる
大牧委員	今のつくりだと社会科の副読本に見える
鈴木委員	オリンピッククイズコーナーで「夏のオリンピックは～」⇒「夏や冬のオリンピックは～」にするといい
鈴木委員	オリンピック・パラリンピックそのものに係るページを増やしたらいい
阿部委員	市内の施設で様々なウィンタースポーツができることを紹介してもいいのでは
阿部委員	⑤～⑥と⑨で内容が被っているため、まとめることができれば、オリパラそのものの学習である⑦～⑧の分量を増やせるのでは
大牧委員	本副教材は、学校に閉じず、家庭や自由研究でも取扱ってほしい
大牧委員	総合的な学習の時間が70時間ある中、10～15時間はオリンピック・パラリンピックあるいは雪のある札幌ということを読んでいいのではないかと
大牧委員	コラムや噴出しもいいが、QRコードを埋め込み家族で眺められるものにしていいのでは
永瀬委員	障がいのある子どもたちにも読んでもらうという視点を持つべき
永瀬委員	グッドマンの「失われたものを数えるな、残された機能を最大限活かせ」という言葉を入れてもいいのでは
成田委員	スペースの問題や地域特性もあると思うが、夏の競技も加えてほしい
成田委員	選手のことだけでなく、道具のこと、選手を支える人たちの仕事などにも広げられると、スポーツが不得意な子どもたちでもスポーツに関われる方法を見つけられるのでは

荒委員	何の教材か明確に分かるつくりの方がいい
永瀬委員	ハード的な要素が多いため、札幌オリンピックでのボランティアのことなどソフト的な要素も載せたらいいのでは
鈴木委員	オリンピック・パラリンピックマークを効果的に活用したい
大牧委員	オリンピック・パラリンピックマークの使用許可が下りなければ自分たちでコンパスを用いて描き、色を塗るなどという工夫をしてみようか
永瀬委員	写真は夏と冬、男女などバランス良く

## ②実践事例について

鈴木委員	アンチドーピングから薬物の恐ろしさを教えることもできるのでは
山本座長	負の遺産については、中学の後半から高校までなら、解決のできない答えのない課題として議論できるだろう
永瀬委員	現状、障がいのある子は体育の授業を見学しているが、一緒にできる方法を考えてほしい